

## お見舞いにかえて

表千家家元

猶有齋 千 宗左

依然として新型コロナウイルス感染症による不安な日々が続いています。さる四月七日には政府による緊急事態宣言も発令されました。

同門社中の皆さま、また日ごろ茶の湯をたしなんでおられる皆さまも、不安のなか、自他の安全をまもるべく努力を重ねておられることと存じます。

表千家家元では、稽古や茶会、献茶式などの家元行事、また各支部で開催予定だった講習会などの催しもほとんどが取りやめ、延期となりました。

世の中がつらく後ろ向きな感情に満ちているこうした時にこそ、一服のお茶が心の癒しになるでしょうし、また稽古場や茶会での交流によって励まされ、支えとなることもあるのでしょうか。しかし感染症による不安という状況のもとではそれもままなりません。

本来であれば今の時期は、京都二条城での観桜茶会をはじめ、さわやかな春の風情のなかでお茶を楽しむことができる好季節なのですが、いろいろなことが制約された現在の情勢は大変残念なことであります。

しかし今は何よりも感染拡大を防ぐため、一人一人が自覚をもって行動することが必要となります。社会的責任という観点からもやむを得ないことでしょう。

この数ヶ月は不要不急のものを自粛する流れもあり、さまざまな文化的催しやスポーツイベントの中止が相次ぎました。実際のところ、文化や芸術、スポーツというものは「不要不急」なものに分類されるでしょう。それらがなければ社会がまわらないというものでは必ずしもありません。

しかし、そうした不要不急なものによってこそ、私たちの生活に彩りが加えられ、日常が豊かなものになるのだということ、そしてそうしたものが時には心の支えともなるのだということ、こうした事態を迎えてみてあらためて感じるのです。

感染症拡大を防ぐため日々ご尽力いただいている関係各位には心から敬意を表します。まだ当分は厳しい状況が続くと言われておりますが、この難局を乗り越えるべく、私たち一人一人がより自身の責任を胸に刻んで日常を過ごすことが求められるのでしょうか。

いずれこの感染症が終息した暁には、また多くの皆さまと茶の湯の楽しみを分かち合うことができると願っています。そしてその折には、ありきたりのごく普通の日常のなかで一服のお茶を喫することができる、そうしたことへの「感謝」の気持ちをこれまで以上に心にとどめて「お茶」のある日常と向き合いたいと考えています。

令和二年四月十日